

平成 29 年度 東筑紫短期大学 教員情報

【食物栄養学科】

ナカオカ ヒロシ
中岡 寛

NAKAOKA Hiroshi 学長補佐 (教学担当)・教授

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担 当 科 目	【食物栄養学科】 ・栄養学総論 ・栄養学各論 ・解剖生理学実験 ・生化学実験	
専 門 分 野	■栄養学	
最 終 学 歴	長崎大学大学院 海洋生産科学研究科修士課程	
学 位	修士 (水産学)	
職 歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (昭和 61 年 4 月～平成 6 年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教授 (平成 6 年 4 月～平成 17 年 3 月) 東筑紫短期大学 教務部 企画広報課長 (平成 10 年 4 月～現在に至る) 九州栄養福祉大学 教務部 企画広報課長 (平成 13 年 4 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成 17 年 4 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 教務部長 (平成 23 年 4 月～平成 29 年 3 月) 九州栄養福祉大学 教務部長 (平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月) 九州栄養福祉大学 学長補佐 (教学担当) (平成 29 年 4 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 学長補佐 (教学担当) (平成 29 年 4 月～現在に至る)	
主な研究活動	【論文】 <hr/> “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Lactic Acid Fermentation ” (英文) 「乳酸発酵に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」 (東筑紫短期大学研究紀要 第 33 号 平成 14 年 12 月) <hr/> (概要) The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus <i>Aureobacidium pullulans</i> ATCC 20524, on the growth of <i>Lactococcus lactis</i> subsp. <i>Lactis</i> 527 and the lactic acid fermentation in skim milk culture media was examined. It was found that β -glucan promoted the lactic acid fermentation during logarithmic growth phase period in the skim milk culture media at 30°C. Above effect had positive relationship with increase in the amount of added β -glucan in skim milk culture media, and this effect got more striking in the presence of high amount of β -glucan.	
	“Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Physical Properties of Acid Milk Curd” (英文) 「ミルク酸カードの物性に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」 (東筑紫短期大学研究紀要 第 34 号 平成 15 年 12 月) <hr/> (総説) The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus <i>Aureobacidium pullulans</i> ATCC 20524, on the physical properties of acid milk curd was examined. The curd was formed by the growth of <i>Lactococcus lactis</i> 527. It was found from the results obtained that β -glucan decreased the clotting time of milk curd formation. But, the effect of β -glucan on the physical properties, namely, hardness, breaking energy, and elastic modulus, respectively, of acid milk curd was undesirable on account of the formation of soft curd.	



“Characteristics of Vienna Sausage Manufactured by Adding Polysaccharide from the Yeast - Like Fungus” (英文)

「酵母様カビ産生多糖を添加したウィンナーソーセージの性状」

(東筑紫短期大学研究紀要 第35号 平成16年12月)

(総説)

The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced from the yeast-like fungus *Aureobacidium pullulans* ATCC 20524, on the characteristics of Vienna sausage was examined. It was found from results obtained that polysaccharide from the yeast-like fungus had no influence on the bacterial growth, VBN, TBA of Vienna sausage during cold storage, whereas the desirable values were earned by the estimation of physical properties and the organoleptic test.

受賞歴

全国栄養士養成施設協会会長表彰

(平成22年11月)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担当科目	<p>〔食物栄養学科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導論Ⅰ、栄養指導論Ⅱ ・栄養学実習 ・栄養指導実習Ⅰ ・給食管理実習Ⅱ <p>〔九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学 <p>〔九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション栄養学 	
専門分野	■管理栄養士・栄養士における関連業務についての指導及び実習	
最終学歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
学位	短期大学士	
職歴	<p>北九州調理師専門学校講師 (昭和45年4月～昭和47年12月)</p> <p>地域活動栄養士 (昭和56年年4月～昭和63年10月)</p> <p>医療法人成康会 堤小倉病院 (昭和63年11月～平成15年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成15年4月～平成17年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教授 (平成17年4月～平成19年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成19年4月～平成22年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成22年4月～現在に至る)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長 (平成23年4月～現在に至る)</p>	
教育上の業績	<p>【著書】</p> <p>(1)「イラスト栄養教育・栄養指導論 第2版」 東京教学社 (平成19年9月)</p> <p>(概要)</p> <p>栄養士の業務である栄養指導は、教育の場においても食指導の必要性が重視されるようになり、栄養教育の用語が広く用いられるようになった。さらに栄養教育の実践の場では指導と教育の区別は困難であり、指導を教育に、教育を指導に双方の連携とフィードバックが必要である。この著書は栄養士、管理栄養士養成に共通でテキストとして使用できる内容となっている。</p> <p>(2)「イラスト栄養教育・栄養指導論 第3版」 東京教学社 (平成24年4月)</p> <p>(概要)</p> <p>平成22年12月に「管理栄養士国家試験出題基準改定検討委員会報告書」が取りまとめられ、新たなガイドラインが公表された。本書においては、ガイドラインに示された「栄養教育論」の出題のねらいを参考にしながら大項目の見直しを行い、好評の“イラスト”もさらに工夫を加えている。</p> <p>(3)「イラスト栄養教育・栄養指導論 第4版」 東京教学社 (平成27年4月)</p> <p>(概要)</p> <p>平成27年4月から5年間にわたって使用される「日本人の食事摂取基準 (2015年版)」が策定・公表されたことなどをを受けて内容の見直しを行い、現場で活躍している栄養士・管理栄養士にも活用できる内容となっている。</p> <p>(4)「演習栄養教育 第6版」 医歯薬出版 (平成26年2月)</p> <p>(概要)</p> <p>「講義」だけでは十分な教育効果が期待できない性格の教科目について「演習」としてカリキュラムが組まれている。本書における概念は、この趣旨を意味しており、学生の自主性と積極的な研究を養成する内容となっている。</p> <p>(5)「ライフステージ実習栄養学 第5版」 医歯薬出版 (平成28年3月)</p> <p>(概要)</p> <p>「講義」だけでは十分な教育効果が期待できない性格の教科目について「演習」としてカリキュラムが組まれている。本書における概念は、この趣旨を意味しており、学生の自主性と積極的な研究を養成する内容となっている。</p>	

**(6) 「演習栄養教育 第7版」** 医歯薬出版 (平成29年2月)

(概要)

栄養教育論は、栄養士・管理栄養士教育の基礎教科・専門教科を包括した集大成ともいえる科目である。今回、「日本食品標準成分表」の改定及び、公的機関から発表される資料・データに対応するため内容の見直しを行い、理論を実践の場に活用できる内容となっている。

(7) 「演習栄養教育 第7版」 医歯薬出版 (平成29年2月)

(概要)

今回、2015年末の「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」の公表により、全献立の栄養価の見直しを行い、さらに「健康日本21(第2次)」や「食育推進基本計画(第3次)」などの情報を参照に、見直しを行っている。現代の様々な食の変化を捉え、ライフステージごとの理論と献立作成などに活用できる内容となっている。

主な研究活動

【研究紀要】

(1) 福岡県豊前市における中高年女性の食生活の変化の検討—20年間の推移—

小川洋子・渡邊陽子 (東筑紫短期大学研究紀要第35号、平成16年12月)

(概要)

豊前市における中高年女性の食物摂取状況、身体状況及び生活活動について20年間の変化を検討した。20年間での変化としては、摂取エネルギーの増加、食塩摂取量の減少さらに日本食を中心とした伝統的な食事形態は個人で異なり多様化が顕著であった。

(2) 福岡県豊前市における中高年女性の食生活の検討

—山間部、市街部及び漁港部の食習慣と身体状況との関連—

小川洋子・大里進子・諸石真由 (東筑紫短期大学研究紀要第36号、平成17年12月)

(概要)

豊前市を居住環境別に山間部、市街部、漁港部の3地域に分類し生活環境が身体状況や食習慣に及ぼす影響について比較検討を行った。食物摂取状況では3地域ともに環境下にある食品の摂取に偏る傾向にあり、特に漁港部では就業主婦が多いため簡単調理となり微量栄養素不足がみられ、生活習慣病予防のためにも食に関する指導の必要性が考察された。

(3) 福岡県豊前市における中高年者の健康状態と食への意識及び食パターンとの関連

小川洋子・大里進子・諸石真由 (東筑紫短期大学研究紀要第37号、平成18年12月)

(概要)

豊前市基本健康診断を受診した中高年女性96名のうち血圧、血糖、血清脂質のいずれもが正常範囲内にある検査値正常者と検査値3項目中2項目以上が異常の範囲内にある検査値異常者を解析対象とした。両群で食物摂取状況と身体状況に明確な関連は認められなかったが食への関心と実効性に相違がみられた。食パターンの解析では正常者は米を主食とし、副食を多食する傾向にあり、異常者は簡便単品食で高エネルギーの食品を摂取している。

(4) 福岡県豊前市における中高年女性の食生活の検討—20年間の食習慣の変化—

小川洋子・大里進子・諸石真由 (東筑紫短期大学 研究紀要第38号、平成19年12月)

(概要)

豊前市において平成16年と17年に調査した地区のうち健康状態と食事評価が最も良好であったY町を対象地区とし同町で20年前に実施した食事調査の結果を比較し食習慣の変化及び食環境や加齢が及ぼす影響を検討した。摂取食品や食事内容は20年間での加齢や食環境の変化により相違はみられるが、偏差パターン類似率で解析の結果、全く異なる食べ方に変化した者は認められなかった。料理レベルでみると家庭の食事は出来るだけ手作りするという態度が習慣化されていた。

(5) 娘と母親の居住形態の相違による食物摂取状況とパターンとの関連

小川洋子・大里進子・山鹿可南子 (東筑紫短期大学研究紀要第39号、平成20年12月)

(概要)

家庭における母親は家族の食生活管理者として果たす役割は重要で娘の食教育に及ぼす影響も大きいと推察される。本学の学生を対象者として居住形態が相違することによる食物摂取状況と食パターンとの関連を検討した結果、同居では娘と母親の食品摂取量は、ほぼ同量であるが別居では娘は肉や卵の摂取量が多く母親は魚介類を多く摂取していた。食パターンでは同居は娘、母親ともに米中心の日本型の食事と欧米型の簡便食で、別居の娘は欧米型中心の簡便食に片寄っていた。

**(6) 食物摂取頻度と秤量記録法との関連—豊前市における居住地別簡易調査法の検討—**

小川洋子・大里進子・知花 臨 (東筑紫短期大学研究紀要第 41 号、平成 22 年 12 月)

(概要)

豊前市において食物摂取頻度調査を実施し、その結果を参考に食物摂取頻度を数量化し秤量法との関連を検討した。しかし数量化は調査対象者の居住条件により、摂取食品や摂取量に相違のあることが考察されたため、豊前市の農村地域と漁港地域の居住地に適した食物摂取状況簡易法の比較検討を行った。その結果、農村地域では農村型頻度法と秤量法との関連性の高いことが検証されたが、漁港地域では野菜類や果物などの有意性が低いためさらに検討を行い、その整合性の検証を行っていくことが必要である。

(7) 豊前市における農村型食物摂取頻度法の検討—食物摂取簡易調査法と秤量法との関連—

小川洋子・大里進子・知花 臨 (東筑紫短期大学研究紀要 第 42 号、平成 23 年 12 月)

(概要)

前報までに食物摂取状況把握の簡易法を考案するため食物摂取頻度を数量化し秤量法との関連を探求したが、今回はさらに砂糖や調味料等を追加し食物摂取の全体量を把握することにより秤量法との妥当性を検討した。その結果、農村地域では作成した農村型頻度法と秤量法との関連性の高いことが検証され、農村型食物摂取頻度法は食物摂取簡易調査法としての有用性が認められた。

(8) 地域における高齢者を対象とした標準型食物摂取頻度法の妥当性と有用性の検討

小川洋子・大里進子・松元千恵美 (東筑紫短期大学研究紀要 第 43 号、平成 24 年 12 月)

(概要)

前報での豊前市における農村型食物摂取頻度法作成の基礎となる標準型食物摂取頻度法を用いて、対象地域を都市に変え高齢者を対象に食物摂取頻度調査を実施し、その妥当性と有用性を検討した。その結果、農村地域と都市では摂取食品の内容や生活環境下での購入内容に相違がみられた。特に高齢者の行動範囲は限られ、食品類も生活区域内で入手しやすい物になることが多いため、頻度法での頻度の区分方法やポーションサイズの検討が必要であることが示唆された。

(9) 若年女性の食物摂取状況と疲労および生活習慣との関連

小川洋子 (東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26 年 12 月)

(概要)

自覚症状による疲労を感じている若年者が多いことに注目し、疲労を強く感じる者とあまり感じない者との活動内容や睡眠時間、さらに食物摂取状況との関連について検討を試みた。アルバイト等で活動時間が長くなるとストレスや疲れを感じ、さらに食事の内容や摂り方も疲労に影響を与えているのではないかと推察された。

(10) 若年女性の食物摂取状況と不定愁訴および生活習慣との関連

小川洋子 (東筑紫短期大学研究紀要 第 47 号、平成 28 年 12 月)

(概要)

近年、社会環境やライフスタイルの複雑化及び多様化に伴う精神的ストレスが増加しており、ストレスを起因とした神経性食欲不振症等が問題となっている。女子学生と接するなかで不定愁訴の実態を見聞きすることが多いため、その原因の検討を試みた。結果として不定愁訴を強く感じる者は、食物摂取が簡便食や嗜好食に偏り、動物性食品や野菜類の摂取が低い傾向にあること等が示唆された。

【学会発表】**(1) 福岡県豊前市における中高年者の食物摂取状況と身体状況との関連 (第 1 報)**

第 52 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 17 年 9 月)

(概要)

平成 16 年 4 月に実施の豊前市基本健康診査受診者のうち女性のみ 81 名を解析対象とし、身体状況と食物摂取状況との関連について検討した。対象者の体位及び各検査値の平均値は全て基準値以内であったが、血圧、総コレステロール、中性脂肪の検査値を正常群と高値群、血糖は境界域を超えた 3 群に分類した。結果として、血圧高値群は BMI、中性脂肪が有意に高値であり、血糖が境界域の群は穀類の摂取が少なく砂糖や甘味類の摂取が多かった。食物摂取状況を食物消費パターンで見ると正常群は食形態に規則性がみられなかったのに対し、高値群は特性があり、菓子類、砂糖・甘味類、卵類、乳類等の単品食品の摂取が多いことが考察された。

**(2) 福岡県豊前市における中高年者の食物摂取状況と身体状況との関連 (第2報)**

(平成17年9月)

(概要)

豊前市を居住環境別に山間部、市街部、漁港部の3地域に分類し住民の生活環境の相違と身体状況や食習慣との関連について検討を行った。結果として山間部では肉類、市街部では多種類の食品、漁港部では魚類が多く摂取食品に偏りがみられ環境下にある手近な食品を多食する傾向にあった。身体状況では山間部や漁港部で血圧や血糖は境界域の範囲内ではあるが生活習慣病の発症が懸念されるため、バランスのとれた食事の重要性について理解を深める教育の必要性が認められた。

(3) 福岡県豊前市における高齢者の身体状態と生活習慣及び食生活との関連 (第3報)

第53回日本栄養改善学会学術総会

(平成18年10月)

(概要)

豊前市基本健康診査を受診し、調査に協力の得られた50歳以上の女性のみ76名を解析対象とし、食物摂取状況調査、生活および食習慣に関するアンケートを実施。さらに農業を主としている対象者を50～60歳代と70歳以上の2群に分類し検討した結果、身体状況、血圧や血糖等検査値は基準の範囲内で両群に有意な差はみられなかった。次に生活時間について検討した結果70歳以上では睡眠は8時間とり、家族や孫との同居者が3割あり、老人クラブやボランティア活動で生きがいを感じているものが50～60歳代と比べ多く認められた。豊前市農山村部の高齢者は仕事と地域活動を通して生きがいを得ることが健康寿命の延長へとつながっていることが示唆された。

(4) 福岡県豊前市における中高年者の健康状態と食への意識及び食パターンとの関連 (第4報)

(平成18年10月)

(概要)

豊前市基本健康診査を受診し、調査に協力の得られた中高年女性96名を検査値正常者と検査値異常者に分け、食物摂取状況と食への意識及び食物消費パターンとの関連を検討した。対象者の食物摂取状況と身体状況との明確な関連はみられなかったが、正常者は手作り料理が多く、異常者は市販惣菜の利用が多い。食パターンの解析結果では正常者は副食品多食と簡便食の成分であり、異常者は洋風食と簡便食の成分と読み取れ、個人別主成分得点の分布状況からみても異常者は簡便食品で高エネルギーの食品を摂取している傾向にあり生活習慣病の増加が懸念される。

(5) 福岡県豊前市における中高年女性の食生活の検討—20年間の食生活の変化—

第54回日本栄養改善学会学術総会

(平成19年9月)

(概要)

近年、食品産業の発達による加工食品の増加は「食」が多様となった一要因となっている。豊前市の同地域の20年前と現在の食物摂取状況の類似性と習慣的な食品の組合せを食パターンで検討した。20年前は日本型の調理を必要とする食品に片寄り、現在は調理が簡単な欧米型食と考えられる。20年間における食習慣の変化は加齢により食事内容が変る以外に調理が簡単で入手しやすい食品を多種摂取している傾向が強く、生活習慣を含めた食生活の検討が示唆された。

(6) 女子学生と母親の居住形態の相違と食習慣の類似性

第55回日本栄養改善学会学術総会

(平成20年9月)

(概要)

食生活を取り巻く環境の変化は大きく、中でも若年女性の過度のダイエット志向、欠食の増加、嗜好本意の食事など健康状態が懸念される。今回は大学の学生とその母親を対象に居住形態が相違することによる食物摂取状況の類似性をみるため偏差パターン類似率を用いて検討した。その結果、同居タイプ中5割はよく類似しているが、別居タイプは類似していない組が4割であった。食品群別摂取量では同居タイプは学生、母親ともに食品の摂取量はほぼ同量であるが、別居タイプの学生は肉や卵の摂取量が多く野菜類の摂取量が少ない。摂取食品にも偏りがみられ欧米型中心の簡便食に片寄る傾向にあった。このことから居住形態の相違による学生の食生活のあり方を考える必要性が示唆された。



	<p>(7) 食物摂取頻度の数量化と食物摂取量との関連について 第 57 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 22 年 9 月)</p> <p>(概要) 食物摂取状況把握の簡易法を考案するため、食物摂取頻度を数量化し秤量調査との比較検討を行った。食物摂取頻度を標準型と農村型に分類し、標準型は一般的な摂取量に、農村型はその地域で摂取量が特に多い食品を重視して数量化し、標準型・農村型の頻度と秤量との関連を分析した結果、農村部では農村型頻度法を用いることにより秤量調査の代行が可能であると考察され、頻度調査(簡易法)の有用性が認められた。</p>
	<p>(8) 福岡県豊前市における食物摂取簡易調査法の検討 —農山村地域の食物摂取頻度法と秤量法との関連— 第 58 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 23 年 9 月)</p> <p>(概要) 前報までに食物摂取状況把握の簡易法として食物摂取頻度を数量化し秤量調査との比較検討を行ったが、今回は調味料等の追加検討を行い前報の結果に加え、食物摂取の全体量を把握、さらに調査対象者を変え農村型食物摂取頻度法の信頼性を検討した。結果として豊前市の農山村地域において、本研究の食物摂取頻度法は食物摂取簡易調査法として信頼性があり、その有用性が認められた。</p>
主な社会活動	<p>(1) 「周望学舎」講師(実習及び講義) 主催 北九州市立年長者研修大学校 (平成 20 年 8 月～平成 26 年 9 月)</p> <p>(概要) 実習内容は「手軽に作れる健康料理」として、入手しやすい食材で 5 品ほど作成。講義は元気な高齢期を過すため、また疾病予防に必要な食事及び栄養素等の摂取方法について行った。</p>
	<p>(2) 子育て支援事業「子育て・親育ちの会」講師 主催 東筑紫短期大学附属幼稚園 (平成 18 年 12 月～平成 19 年 1 月、平成 25 年～28 年 8 月)</p> <p>(概要) 成長期に必要な栄養素を含む食品を用い、子どもでも簡単に楽しく作れるよう工夫し、親子で実習を行った。</p>
	<p>(3) 親子ふれあいクッキング教室 講師 主催 東筑紫短期大学附属幼稚園 (平成 23 年 8 月～平成 28 年 7 月)</p> <p>(概要) 自然の恵みや食べ物への感謝の気持ちを持つことを中心に、園児と保護者が一緒に楽しく料理作成に取り組める内容とした。</p>
	<p>(4) 栄養士会研修会講演 講師 主催 福岡県精神病院協会北九州ブロック (平成 20 年 1 月) テーマ「栄養教育・栄養指導のスキルアップ～カウンセリング技法を用いて～」</p> <p>(概要) 精神科病院における栄養指導は難しいと言われるが、カウンセリング技法を用いることにより実行しやすくなるを考える。具体的な事例を基にスキルアップの方法を示した。</p>
	<p>(5) 西日本看護専門学校(兼任講師) 栄養学担当 (平成 16 年度～平成 18 年度)</p> <p>(概要) 看護師養成校における栄養学は特に経口摂取の大切さに視点をおき、病院での管理栄養士の実務経験に基づき看護に必要な栄養学、食の重要性などの講義を行った。</p>
	<p>(6) 西日本看護専門学校(兼任講師) 栄養学担当 (平成 16 年度～平成 18 年度)</p> <p>(概要) 担当科目は栄養教育論、公衆栄養学、臨床栄養学であり、短大卒業生が中心のため、講義を行い練習問題に取り組みさせた。</p>
	<p>(7) 第 41 回福岡県栄養改善学会 座長 (平成 27 年 10 月)</p>
所属学会	<p>日本栄養改善学会 (平成 17 年 4 月～現在に至る)</p> <p>日本健康学会 (旧民族衛生学会) (平成 25 年 11 月～現在に至る)</p>

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシー ・情報処理学演習Ⅱ ・医療事務概論 ・医療秘書実務 ・診療報酬請求事務Ⅰ、診療報酬請求事務Ⅱ ・医療秘書実務実習 <p>[美容ファッションビジネス学科 ファッション・ビジネスコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療事務概論
専門分野	<p>■情報処理学</p> <p>■医療秘書学</p>
最終学歴	九州工業大学大学院工学府 先端機能システム工学専攻 博士後期課程修了
学位	博士 (工学)
職歴	<p>コマック株式会社 (現 株式会社アステム) (昭和60年11月～平成11年3月)</p> <p>医療法人 聖亮会 聖ヨハネ病院 事務長 (平成11年4月～平成13年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成13年4月～平成22年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 学生部就職指導課 主事 (平成19年4月～平成26年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成22年4月～平成29年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部学生指導課 課長 (平成26年4月～現在に至る)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成29年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○本学および併設校 九州栄養福祉大学の学生・教職員のパソコン活用能力をより一層向上させるため、「セキュリティ対策」「Windowsの活用方法」「Wordの活用方法」「Excelの活用方法」「有益なフリーウェアの紹介」について、平易な言葉で解説した週刊紙「@imcシリーズ」を発行した。(平成16年9月～平成20年1月)</p> <p>○本学の入試に大学入試センター試験利用を導入するに当たり、インターネット回線にて受信した大学入試センター試験結果を教務部で利用可能なフォーマット(Excelデータ形式)に変換するツールを作成した。(平成17年9月～)</p> <p>○日本医療福祉実務教育協会にて医療秘書実務士養成に携わる教職員を対象に「e-Learning勉強会」を実施。(平成18年10月、平成20年9月)</p> <p>○日商PC検定をはじめ、診療報酬請求事務能力認定試験、フードスペシャリスト資格認定試験等、学生が受験する各種資格試験対策として、Webベースのe-Learningを構築した。(平成19年2月～)</p> <p>○平成19年度は食物栄養学科担当として、平成20年度以降は、食物栄養学科ならびに併設校九州栄養福祉大学の担当として学生の就職支援に従事した。(平成19年4月～平成26年3月)</p> <p>○学生の就職活動を支援するシステムとして、Webアプリケーションを有効活用し、学生(卒業生を含む)ならびに教職員が学内LANおよびインターネットを通じて、いつでもどこからでも企業情報や求人情報などを検索・閲覧可能なWebデータベースを構築した。学生には、就職エントリーも可能とし、教職員には、担当学生の就職活動状況の情報を閲覧可能とした。また、過去(卒業生)の就職活動状況の情報をデータベースとして蓄積し、閲覧可能とした。本取り組みは、平成21年度 文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラムに採択された。(平成19年4月～)</p> <p>○平成21年度の本学ならびに併設校九州栄養福祉大学の第三者評価受審に伴い、事務局として自己点検・評価報告書の取り纏めに携わった。(平成19年4月～平成22年3月)</p> <p>○栄養士として現場で活躍している本学食物栄養学科卒業生、および栄養士養成施設の既卒者を対象に学び直しニーズに対応するため、管理栄養士国家試験対策講座を開講した。事務局として講座運営(おもに模擬試験の採点業務を担当)ならびに「社会・環境と健康」分野の講師を担当した。なお、本取り組みは私立大学等経常費補助金特別補助に採択された。(平成19年11月2日)</p>

	○本学（平成 27 年度）ならびに、併設校 九州栄養福祉大学（平成 28 年度）の第三者評価受審に伴い、事務局として自己点検・評価報告書の取り纏めに携わった。（平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月）
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>「医学・医療用語ハンドブック」 建帛社（平成 17 年 11 月）</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、医療福祉教育を学ぶ学生のほか、医療・福祉分野に従事している者を対象とし、医学・医療・福祉と幅広い分野の用語の検索が容易で内容が理解しやすく携帯できるハンドブックである。用語は使用頻度の高い重要用語 1,400 語を五十音配列で掲載するとともに、人体解剖図を掲載して各部の名称を記している。また、医療現場で役立つよう、医療英語、難読漢字、薬と薬効、医療分野で使用される単位、特定疾患一覧などを表にまとめている。</p> <p>（編著者：美馬信、林正之、<u>萩原勇人</u>、中澤厚志、著者：倉戸啓子、桜井勉、大棒秀一、西岡百合子、若林太</p> <p>執筆担当分野：医療情報、診療報酬、人体解剖図、なお、執筆ページについては執筆項目が 50 音配列で多岐に掲載されているため省略。）</p> <p>「改定 医療秘書実務」 建帛社（平成 19 年 10 月）</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、日本医療福祉実務教育協会が認定する「医療秘書実務士」養成の趣旨に沿って、基本的に理解しておかなければならない内容を実務に重点を置き、その内容を体系的にとらえ、実践に即応できるテキストとなっている。</p> <p>（編著者：美馬信、東野國子、著者：岩崎充孝、沖山圭子、<u>萩原勇人</u>、山村美穂子。</p> <p>執筆ページ：pp135-163。）</p> <p>「病院事務のための医療事務総論／医療秘書実務」 建帛社（平成 29 年 4 月）</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、日本医療福祉実務教育協会が認定する「医療秘書実務士」養成の趣旨に沿って、基本的に理解しておかなければならない内容を実務に重点を置き、その内容を体系的にとらえ、実践に即応できるテキストとなっている。</p> <p>（編著者：有吉澄江、沖山圭子、著者：岩崎充孝、上田知美、小辻一己、小松仁美、藤堂隆司、中川雅登、<u>萩原勇人</u>。執筆ページ：pp201-208。）</p>
	<p>【研究紀要】</p> <p>「オープンソース・ソフトウェア活用事例 3 －Samba を用いた Windows NT 互換サーバの構築－</p> <p>（東筑紫短期大学研究紀要 第 33 号、平成 14 年 12 月）</p> <p>（概要）</p> <p>本稿では、本学 生活文化学科（現 美容ファッションビジネス学科）が Windows NT Server 4.0 からの移行手段として選択した Samba の概要と設定について述べている。Samba は無償で利用可能なソフトウェアであるが、適切な設定を施すことで、Windows NT Server 4.0 以上の機能を有するサーバを構築することに成功した。（志水孝嘉、赤松貴文、<u>萩原勇人</u>：pp7-26。）</p> <p>「オープンソース・ソフトウェア活用事例 4 －VPN を利用したセキュアな無線 LAN の構築－</p> <p>（東筑紫短期大学研究紀要 第 33 号、平成 14 年 12 月）</p> <p>（概要）</p> <p>本稿は、本学における無線 LAN のセキュリティ対策について報告している。具体的には、「アクセスポイントを内部 LAN とは異なるセグメントに設置」し、「アクセスポイントにおけるセキュリティ対策」に加えて「PPTP サーバによるユーザ認証、暗号化通信、パケットフィルタリング」を実施している。結果、アクセスポイントに不正接続された場合でも通信内容は盗聴不可能であり、内部 LAN セグメントおよびインターネットには接続不可能な無線 LAN 環境を構築することに成功した。（赤松貴文、<u>萩原勇人</u>：pp27-50。）</p>



「学生指導および授業へのメール利用について」

(東筑紫短期大学研究紀要 第33号、平成14年12月)

(概要)

本稿では、本学の情報教育の中で行われている電子メールの操作方法及び活用方法の一環として、携帯電話の普及に伴い学生が利用している携帯電話のメール機能に着目し、学生指導にこれを活用し、学生とのコミュニケーションツールとして役立てるとともに授業への活用を進めていくことを試みた。

(坂田正明、萩原勇人：pp51-64。)

「学内ユビキタスコンピューティングの整備1 -ドメイン統合による共通利用環境の構築-」

(東筑紫短期大学研究紀要 第34号、平成15年12月)

(概要)

本稿では、適切な権限を有するユーザに対して教育上必要となる情報を学内のいたるところで閲覧・更新可能な「学内ユビキタスコンピューティング」の実現を最終目標に、その準備段階としてのパソコン環境整備について述べている。パソコン環境が統一されたことにより、所属学科を問わず、任意のパソコン教室を利用した授業および自己学習が可能となり、利便性を大幅に向上させることに成功した。

(萩原勇人、赤松貴文、向敏也、太田貴公浩、山本浩貴、池畑雅子、西園綾花：pp137-160。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例5 -Snortを用いた侵入検知システムの構築-」

(東筑紫短期大学研究紀要 第35号、平成16年12月)

(概要)

本稿では、学内ネットワークにおけるセキュリティ強度をより向上させるために構築した侵入検知システムについて述べている。本システムにより学内ネットワークの監視を行ったところ、クライアントOSから送信されている不要なパケットの存在が明らかとなった。各クライアントOSの設定を変更することで、利用環境の改善を図ることに成功した。(萩原勇人、赤松貴文、向敏也：pp45-70。)

「管理栄養士国家試験対策 e-Learning システムの構築」

(九州栄養福祉大学研究紀要 創刊号、平成17年3月)

(概要)

本稿では、併設校九州栄養福祉大学第一期生の管理栄養士国家試験受験を支援するために構築した e-Learning システムの概要について述べている。出題問題には教科情報および分野情報が関連付けられており、回答結果のリアルタイム採点に加えて、教科および分野別の正答率を把握可能である。本システムは学生からの要望を取り入れながら、筆者ら本学教員の手でゼロから構築されたものであり、将来的には本学において実施されている各種免許・資格・検定対策としても利用可能な拡張性を併せ持つものである。(赤松貴文、楠瀬千春、萩原勇人：pp123-142。)

「管理栄養士国家試験対策用成績管理システムの構築(1) -OMR 利用による個人成績管理-」

(九州栄養福祉大学研究紀要 創刊号、平成17年3月)

(概要)

本稿では、併設校九州栄養福祉大学における管理栄養士国家試験対策の一環として実施している学内模擬試験をはじめ、各種試験の採点、成績管理、学生に返却する成績資料作成を行うために構築した成績管理システムの概要について述べている。本システムの導入により、成績資料の迅速な返却に加え、業者主導の外部模擬試験と比較して、より詳細な分析結果の返却が可能となった。

(楠瀬千春、赤松貴文、萩原勇人：pp101-122。)

「診療科目別にみる診療報酬請求事務の教育法について」

(東筑紫短期大学研究紀要 第36号、平成17年12月)

(概要)

本稿では、複雑で難解な診療報酬の解釈を学生が効率よく、また、分かりやすく学習できるような診療報酬請求事務の教材作成と授業展開を試みた。厚生労働省発表のデータを基に、診療科目ごとの診療行為別診療報酬請求状況を調査したうえで、診療科目ごとにケーススタディ形式でのストーリーを展開し、診療報酬の解釈を具体的にイメージできるようにすることで単なる記憶ではなく、状況に応じた解釈が学習できるような仕組みを構築した。(pp235-251。)



「オープンソース・ソフトウェア活用事例 6 ーホットスワップ対応ミラーリング環境の構築ー」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 38 号、平成 19 年 12 月)

(概要)

本稿では、本学および併設校 九州栄養福祉大学における各種サーバの可用性向上を目指し、Serial ATA ハードディスクとソフトウェア RAID を用いたホットスワップ対応ミラーリング環境の構築について述べている。本研究により、ハードディスク障害の迅速な検知、および障害からの迅速な復旧が可能となり、各種サーバの可用性を向上させることに成功した。(萩原勇人、赤松貴文：pp215-226。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例 7

ーホットスワップ対応ミラーリング環境の構築 2ー」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 39 号、平成 20 年 12 月)

(概要)

本稿では、本学および併設校 九州栄養福祉大学における各種サーバをホットスワップ対応ミラーリング環境とするにあたり、ハードディスクのホットスワップ、ミラーリング環境の復旧に要する作業時間の短縮、作業ミスの防止を図るために作成した支援プログラム"hotswap"について述べている。本支援プログラムにより、各種サーバの可用性をさらに向上させることに成功した。

(萩原勇人、赤松貴文：pp17-40。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例 8ーfloppyfw を用いたファイアウォールの構築 2ー」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 40 号、平成 21 年 12 月)

(概要)

本稿では、本学および併設校 九州栄養福祉大学における floppyfw で構築されたブランチネット型パケットフィルタリング・ファイアウォールの可用性および管理性能の向上を目指して行った改良について述べている。floppyfw の起動メディアをフロッピーディスクから USB メモリに変更することで、起動速度の高速化を図るとともに追加パッケージ用領域を確保し、追加パッケージの導入により管理性能の向上を図ることに成功した。(萩原勇人、赤松貴文：pp149-162。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例 9

ーWeb メールサービスの構築に向けたメールサーバの改良ー」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 42 号、平成 23 年 12 月)

(概要)

本稿では、メールクライアントソフトウェアの初期設定等を行うことなく学外から大学宛に届いたメールを読み書きできる「Web メール」サービスの導入に向けて行ったメールサーバの改良について述べている。メールサーバソフトウェアを qmail から Postfix + Dovecot に移行し、受信メールをサーバ上に保管することで、複数のメールクライアントからのメール受信に対応できるよう改良を行った。

(萩原勇人、赤松貴文：pp11-20。)

「Web アプリケーションによる就職支援システムの構築 1」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 42 号、平成 23 年 12 月)

(概要)

本稿では、学生の就職活動に対する意識向上を図るとともに就職指導課と各学科の更なる連携体制を図る目的で構築した Web ブラウザ上で動作する業務アプリケーションについて述べている。ユーザは特別なソフトウェアや端末を必要とせず、また、就職支援システム専用のサーバを構築することで、学生に対して有益な情報を公開することを可能とした。さらには、インターネットを通じて接続可能であるとともに携帯電話やスレート端末等にも対応しており、いつでもどこでも就職活動におけるタイムリーな情報が入手可能となった。(萩原勇人、矢野正人、赤松貴文：pp21-37。)



「オープンソース・ソフトウェア活用事例 10
－Roundcube を用いた Web メールサービスの構築－」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 43 号、平成 24 年 12 月)

(概要)

本稿では、Web メールサービスの構築について述べている。Roundcube と呼ばれる Web メールクライアントソフトウェアをアプリケーションサーバ上に導入するとともに、ユーザの利便性向上を目指して Roundcube の改良を行った。(萩原勇人、赤松貴文：pp159-175。)

「Web アプリケーションによる就職支援システムの構築 2
－オープンソース帳票生成ライブラリ JasperReports との連携－」(論文)

(東筑紫短期大学研究紀要 第 44 号、平成 25 年 12 月)

(概要)

本稿では、学生の就職活動に対する意識向上を図るとともに就職指導課と各学科の更なる連携体制を図る目的で構築した就職支援システムへの機能追加について述べている。オープンソース・ソフトウェアである帳票生成ライブラリ JasperReports との連携を図り、PDF 形式による各種帳票出力の機能を実装した。(萩原勇人、矢野正人、赤松貴文：pp65-78。)

「Web アプリケーションによる就職支援システムの構築 3
－Web アプリケーション開発ツール Wagby R7 への対応－」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26 年 12 月)

(概要)

平成 26 年 1 月に Wagby が R6 から R7 へとメジャーアップデートされ、開発環境が大幅に刷新された。本稿では、就職支援システムの更なる充実を図るため実施した Wagby R7 への対応とともに、Wagby R7 を用いて構築した本システムへの追加機能について紹介している。(萩原勇人、矢野正人、赤松貴文：pp 153-167。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例 11
－LEAF Bering-uClibc を用いたファイアウォールの構築－」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26 年 12 月)

(概要)

本稿では、LEAF Bering-uClibc を用いて構築したファイアウォールの概要について述べている。LEAF Bering-uClibc は現在も活発に開発が継続されている、ファイアウォール構築に適した Linux ディストリビューションであり、USB メモリからの起動にも対応している。LEAF Bering-uClibc を採用したことで、安全性、安定性、拡張性の高いファイアウォールを構築することができた。(萩原勇人、赤松貴文：pp169-180。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例 12
－ownCloud を用いたオンラインストレージの構築－」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 46 号、平成 27 年 12 月)

(概要)

本稿では、多くの教職員、学生にとって有用であると予想される、学外からもアクセス可能なファイル共有サービスであるオンラインストレージサービスの構築について述べている。オンラインストレージサービスを活用することで、学内で作業したファイルに学外からアクセスできるようになるなど、業務効率や作業効率の大幅な向上が期待できる。(萩原勇人、赤松貴文：pp147-160。)

「オープンソース・ソフトウェア活用事例 13
－LEAF Bering-uClibc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築－」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 47 号、平成 28 年 12 月)

(概要)

本稿では、LEAF Bering-uClibc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築について述べている。LEAF Bering-uClibc にはソフトウェアパッケージのをビルドする機能がないため、一般的な Linux ディストリビューションを用いてビルド環境を構築する必要がある。本研究は、CentOS 6.8 を用いて LEAF Bering-uClibc 5 用ソフトウェアパッケージのビルド環境を構築した。(萩原勇人、赤松貴文：pp9-20。)



【発表等】

「FPGA を用いたリアルタイム画像処理システムの構築」(発表)

平成 22 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 22 年 9 月)

(大岡 芳暢、萩原勇人、浅海 賢一、小森 望充 :

平成 22 年度電気関係学会九州支部連合大会公演論文集 CD-ROM、02-1P-06、九州産業大学、平成 22 年 9 月 25 日-26 日。)

Asami, K., Ooka, Y., Hagiwara, H. and M. Komori, M.: Development of Robot Vision System with FPGA and Real-time Linux, Proc. of International Multi-Conference on Complexity, Informatics and Cybernetics, Vol.2, pp.87-90, Orlando, March, 2011.Hagiwara, H., Asami, K. and M. Komori, M.: FPGA Implementation of Image Processing for Real-time Robot Vision System, Proc. of International Conference on Convergence and Hybrid Information Technology, pp.134-141, Daejeon, Korea, September 22-24, 2011.Asami, K., Hagiwara, H. and M. Komori, M.: Development of Visual Navigation System for Patrol Service Robot, Proc. of International Conference on Convergence and Hybrid Information Technology, pp.267-270, Daejeon, Korea, September 22-24, 2011.

「FPGA を用いたリアルタイム画像処理システムの構築」(発表)

平成 23 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 23 年 9 月)

(大岡 芳暢、萩原勇人、浅海 賢一、小森 望充 :

平成 23 年度電気関係学会九州支部連合大会公演論文集 CD-ROM、03-2P-16、佐賀大学、平成 23 年 9 月 26 日-27 日。)

「巡回サービスロボットの視覚ナビゲーションシステムの構築」(発表)

平成 23 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 23 年 9 月)

(光永聖人、萩原勇人、浅海 賢一、小森 望充 :

平成 23 年度電気関係学会九州支部連合大会公演論文集 CD-ROM、03-2P-17、佐賀大学、平成 23 年 9 月 26 日-27 日。)

Asami, K., Hagiwara, H. and M. Komori, M. : Visual Navigation System with Real-time Image Processing for Patrol Service Robot, Proc. of 8th IEEE International Conference on Embedded Software and Systems, pp.1229-1234, Changsha, China, November 16-18, 2011.

「FPGA を用いたステレオビジョンシステムの構築」(発表)

平成 24 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 24 年 9 月)

(西部尚矢、萩原勇人、浅海賢一、小森望充 :

平成 24 年度電気関係学会九州支部連合大会講演論文集 CD-ROM、03-2A-05、長崎大学、平成 24 年 9 月 24-25 日。)

「移動体行動解析のためのステレオビジョンシステムの構築」(発表)

平成 24 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 24 年 9 月)

(劉雅倩、萩原勇人、浅海賢一、小森望充 :

平成 24 年度 電気関係学会九州支部連合大会講演論文集 CD-ROM、03-2P-08、長崎大学、平成 24 年 9 月 24-25 日。)

Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : Real-time Image Processing System by Using FPGA for Service Robots, Proc. of the 1st IEEE Global Conference on Consumer Electronics, pp.178-181, Chiba, Japan, October 2-5, 2012.Asami, K., Hagiwara, H. and Komori, M. : Visual Navigation System Based on Evolutionary Computation on FPGA for Patrol Service Robot, Proc. of the 1st IEEE Global Conference on Consumer Electronics, pp.169-172, Chiba, Japan, October 2-5, 2012.Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : Development of Adaptive Image Processing based on FPGA for Real-time Robot Vision System, Proc. of the 1st International Conference on Industrial Application Engineering 2013, pp.174-181, Kitakyushu, Japan, March 27-28, 2013.



	<p>「移動ロボットのための SIFT 特徴量を用いたシーン認識」(論文) 産業応用工学会論文誌 Vol.1、No.2 (平成 25 年 9 月) (當眞康史, 萩原勇人, 浅海賢一, 小森望充 : pp39-46。)</p> <p>Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : Development of Adaptive Image Processing based on FPGA for Real-time Robot Vision System, Journal of the Institute of Industrial Applications Engineers, Vol.1, No.2, pp.90-96, Oct. 2013.</p> <p>Touma, Y., Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : Local Binary Feature Based on Census Transform for Mobile Robot, Proc. of Joint 7th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 15th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, pp.1192-1197, Kitakyushu, Dec., 4-5, 2014.</p> <p>Daiki Kitayama, Yasufumi Touma, Hayato Hagiwara, Kenichi Asami and Mochimitsu Komori: 3D Map Construction Based on Structure from Motion Using Stereo Vision, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#183, Kitakyushu, June 15-18, 2015.</p> <p>Kaichiro Nakazato, Yasufumi Touma, Hayato Hagiwara, Kenichi Asami, Mochimitsu Komori: FPGA-based Stereo Vision System Using Census Transform for Autonomous Mobile Robot, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#182, Kitakyushu, June 15-18, 2015.</p> <p>Tsukasa Nakamura, Yasufumi Touma, Hayato Hagiwara, Kenichi Asami, Mochimitsu Komori: Scene Recognition Based on Gradient Feature for Autonomous Mobile Robot and Its FPGA Implementation, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#181, Kitakyushu, June 15-18, 2015.</p> <p>Hayato Hagiwara, Yasufumi Touma, Kenichi Asami and Mochimitsu Komori: FPGA-Based Stereo Vision System Using Gradient Feature Correspondence, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.27, No.6, pp.681-690, December 2015.</p>
主な社会活動	<p>・北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 シニアカレッジ講師 (平成 18 年 11 月、平成 21 年 12 月) (概要)</p> <p>「治療費の中身わかりますか？」と題して、保険診療のしくみと診療報酬点数表の解釈の基礎をわかりやすく解説。社会保険・国民健康保険・老人保健の概要、ならびに診察料、投薬料、注射料、検査料等の診療報酬点数の計算方法を解説し、「なぜ、病院によって治療費が違うのか?」、「昨日と同じ内容なのに治療費が違うのは、なぜ?」など、よくある疑問について詳しく解説した。また、診療報酬請求事務を実際に体験させた。</p>
所属学会	<p>日本医療福祉実務教育協会 (e-Learning 教育・検定委員会 座長) (平成 18 年～現在に至る)</p> <p>全国医事振興協会 (専門委員) (平成 16 年～現在に至る)</p> <p>日本医療保険事務協会 (平成 16 年～現在に至る)</p>

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[東筑紫短期大学 食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育原理 ・教育職の研究 ・教育課程論 ・道德教育の理論と方法 ・教職実践演習 (栄養教諭) <p>[九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程論 ・教育方法論 ・教職実践演習 (栄養教諭)
専門分野	■教育学
最終学歴	上智大学 哲学研究科 哲学専攻 博士課程 単位取得満期退学
学位	修士 (文学)
職歴	<p>鳥取大学・医学部・生命科学科 非常勤講師 「心理学」 担当 (平成9年4月～平成9年10月)</p> <p>島根大学・教育学部・教育学専修 非常勤講師 ○「教育思想と哲学」 / 「教育哲学」 担当 (平成9年4月～平成15年10月)</p> <p>鳥取大学・医学部・医学科 非常勤講師 「生命倫理学」 担当 (平成9年10月～平成12年3月)</p> <p>島根大学・教育学部・教育学専修 非常勤講師 集中講義 ○「西洋教育史」 担当 (平成11年10月)</p> <p>島根県立看護短期大学・地域看護学専攻科 (現島根県立大学) 非常勤講師 ○「教育原理」 担当 (平成12年4月～平成16年10月)</p> <p>鳥取大学・医学部・保健学科 非常勤講師 「生命倫理学」 担当 (平成18年4月～平成20年3月)</p> <p>米子工業高等専門学校 専攻科・本科 非常勤講師 「技術者倫理学」 担当 (平成18年4月～平成29年3月)</p> <p>米子工業高等専門学校 本科 非常勤講師 「ドイツ語」 担当 (平成22年4月～平成29年3月)</p> <p>島根大学・生物資源科学部・総合理工学部 集中講義 非常勤講師 ○「教育原論」 担当 (平成23年4月～平成29年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 ○「教育原理」「教育方法論」「教育課程論」 「道德教育の理論の方法」「教職実践演習 (栄養教諭)」 担当 (平成29年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>1. 教育方法の実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ討論を取り入れた授業 (平成9年～島根大学) ○ 討論を通じて対話能力を身に付ける プロジェクターを使用した授業 映像等によってテーマを具体的に説明

**2.作成した教科書、教材**

○テキスト『カントと現代』再掲、「幸福概念の定位について—宗教的・道徳的動機の位相—」

晃洋書房（日本カント協会編）平成9年12月 231-244頁

（濱田義文、渡辺二郎、量義治、三島淑臣、大橋容一郎、岩隈敏、牧野英二、知念英行、高嶺一愚、門脇卓爾、檜垣良成、遠藤寿一、平野登士、船場保之、渋山昌雄、甲田純生）

（概要）

本書は、西洋近代と現代の思想を繋げる上で恰好のテキストである。私がテーマとした「幸福とは何か」という問いは、思想史上繰り返し投げかけられてきた問いである。本稿では「幸福概念の定位について—宗教的・道徳的動機の位相—」の標題のもとに、エピクロス—ストア学派—キリスト教といった西洋の幸福概念をいかにカントが取り込んでいったかを反省することによって道徳性と幸福概念の統一の可能性を模索した。

○テキスト『倫理と道徳の次元—カント解釈を手がかりに—』（再掲）

京大出版センター120頁、平成16年3月

（概要）

人間の本性を特徴づけるカントの言葉には、彼が世代を超えて伝えようとする人間の本性に対する透徹した眼差しがある。すなわち人間の有限性と未来に対する人間への道徳的希望が凝縮されている。一見ただけでは平板にしか読み取れないこういったカントの言葉からダイナミックな彼の心情と力を汲み取ることによって、道徳的な灯りを足元に照らすことができる。

主な研究活動**【著書】**

1. 『カントと現代』、「幸福概念の定位について—宗教的・道徳的動機の位相—」（共著）

晃洋書房（日本カント協会編）平成9年12月

分担箇所 231-244頁

（濱田義文、渡辺二郎、量義治、三島淑臣、大橋容一郎、岩隈敏、牧野英二、知念英行、高嶺一愚、門脇卓爾、檜垣良成、遠藤寿一、平野登士、船場保之、渋山昌雄、甲田純生）

2. 『倫理と道徳の次元—カント解釈を手がかりに—』（単著）

京大出版センター 120頁 平成16年3月

3. 『生命倫理と教育倫理—倫理と教育の現在—』（単著）

太陽書房 184頁 平成16年4月

4. 『人間中心主義は本当に誤りか？—人間の尊厳を求めて—』（単著）

NSK出版 244頁 平成19年6月

5. 『倫理教育の方法論—人間観と価値観の共有化を求めて—』（単著）

一粒書房 66頁 平成29年3月

【学術論文】

1. 「カントの悪の論理について」（単著）

『倫理学年報』第42号（日本倫理学会編）37-51頁 平成5年3月

2. 「自由概念の諸相—道徳・生命倫理教育の展望における—」（単著）

『道徳と教育』第308,309号（日本道徳教育学会編）72-77頁 平成13年10月

3. 「道徳性の次元—生涯学習を展望した道徳教育の定位—」（単著）

『道徳と教育』第310,311号（日本道徳教育学会編）326-332頁 平成14年3月

4. 「生命倫理・環境倫理と教育の倫理—人間の尊厳の保持のために—」（単著）

『生命倫理』通巻第13号（日本生命倫理学会編）62-69頁 平成14年9月

5. 「教育の倫理の課題—道徳教育・応用倫理（生命倫理、環境倫理）教育の展望における—」（単著）

『教育学研究紀要』第48巻第1部（中国四国教育学会編）306-311頁 平成15年3月

6. 「性と教育—ジェンダーフリーの不安と課題—」（単著）

『道徳と教育』第314, 315号（日本道徳教育学会編）24-30頁 平成15年3月

7. 「倫理と教育—教育目的と研究倫理に関して—」（単著）

『道徳と教育』第316, 317号（日本道徳教育学会編）119-126頁 平成15年10月

8. 「医療と教育—倫理的・目的的視座における—」（単著）

『教育学研究紀要』第49巻（中国四国教育学会編）79-84頁 平成16年3月



9. 「生命倫理の諸問題と教育倫理—人間の尊厳の相対化現象をめぐって—」(単著)

『道徳と教育』第318, 319号(日本道徳教育学会編)380—387頁 平成16年3月

10. 「ユーモア・清明・善意—円熟した教育者の基本的態度—」(単著)

『道徳と教育』第320, 321号(日本道徳教育学会編)132—144頁 平成16年12月

11. 「人間と生命—人間中心主義は本当に誤りか?」(単著)

『教育学研究紀要』第50巻(中国四国教育学会編)6—9頁 平成17年3月

12. 「人権から人間の生命へ—人間性の根拠をめぐって—」(単著)

『道徳と教育』第322, 323号(日本道徳教育学会編)241—251頁 平成17年3月

13. 「『人間であること』の重要性と人間中心主義」(単著)

『生命倫理』通巻第16号(日本生命倫理学会編)144—150頁 平成17年9月

14. 「自然科学・技術と倫理—情報技術・医療技術・環境論的技術を展望して」(単著)

『教育学研究紀要』第51巻(中国四国教育学会編)12—17頁 平成18年3月

15. 「死生観と教育」(単著)

『教育学研究紀要』第52巻(中国四国教育学会編)1—6頁 平成19年3月

16. 「技術者倫理と教育—『人間のため』の技術者倫理とは—」(単著)

『教育学研究紀要』第53巻(中国四国教育学会編)193—198頁 平成20年3月

17. 「技術者倫理教育と倫理学理論」(単著)

第57回工学・工業教育研究講演会 講演論文集(日本工学教育協会)546—547頁 平成21年12月

18. 「ヒューマン・エラーとヒューマン・ファクター」(単著)

『教育学研究紀要』第55巻(中国四国教育学会編)94—99頁 平成22年3月

19. 「人生の意義・目的は?と問われたら—道徳教育を展望して—」(単著)

『教育学研究紀要』第56巻(中国四国教育学会編)544—549頁 平成23年3月

20. 「カントの定言的命法について—道徳教育を展望して—」(単著)

『教育学研究紀要』第57巻(中国四国教育学会編)25—30頁 平成24年3月

21. 「人間尊重の精神とは—ルールとカントの人間観を参考に—」(単著)

『教育学研究紀要』第58巻(中国四国教育学会編)1—6頁 平成25年3月

22. 「人間の位置づけと道徳教育—ルールとカント倫理学を参考に—」(単著)

『教育学研究紀要』第59巻(中国四国教育学会編)331—336頁 平成26年3月

23. 「自己犠牲についての道徳的位置づけ—ニーチェとカント—」(単著)

『教育学研究紀要』第60巻(中国四国教育学会編)1—6頁 平成27年3月

24. 「技術者倫理教育と人間観」(単著)

第64回工学・工業教育研究講演会 講演論文集(日本工学教育協会)196—197頁 平成28年12月

25. 「自由と道徳的責任」(単著)

『教育学研究紀要』第61巻(中国四国教育学会編)317—322頁 平成28年3月

26. 「科学技術時代における人間観—倫理教育を展望して—」(単著)

『教育学研究紀要』第62巻(中国四国教育学会編)1—6頁 平成29年3月

他10編の論文

【学会発表(口頭発表)】

1. カントのライプニッツ批判における物自体の位相(単独)

第42回 日本倫理学会大会発表 平成3年10月(東北大学)

2. シェリングの遺徳的悪について—カントの悪の理論との対決における—(単独)

第37回 上智大学哲学会大会発表 平成4年10月(上智大学)

3. 生命倫理と教育倫理—人間の尊厳の相対化現象をめぐって—(単独)

第59回 日本道徳教育学会大会発表 平成14年6月(鳥取大学)

4. 教育倫理の課題—道徳教育・応用倫理(生命倫理,環境倫理)教育の展望における—(単独)

第54回 中国四国教育学会大会発表 平成14年11月(高知大学)

5. 倫理と教育—教育目的と研究倫理に関して—(単独)

第61回 日本道徳教育学会大会発表 平成15年6月(道都大学)



- | |
|--|
| 6. 医療と教育—WHO の健康定義を手がかりに— (単独)
第 55 回 中国四国教育学会大会発表 平成 15 年 11 月 (広島大学) |
| 7. 看護職への期待—生命倫理の視点から (単独)
第 17 回 日本看護研究学会中国四国大会、パネルディスカッション 平成 16 年 3 月 (鳥取大学) |
| 8. O.F.ボルノーのユーモア・清明・善意—円熟した教育者の基本的態度 (単独)
第 63 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 16 年 6 月 (名城大学) |
| 9. 人間中心主義と生命中心主義—生命倫理とエコロジーの倫理性について— (単独)
第 48 回 日本デュイ学会大会発表 平成 16 年 10 月 (日本大学) |
| 10. 人間中心主義は本当に誤りか?—生命倫理・エコロジーと教育倫理の視点から— (単独)
第 56 回 中国四国教育学会大会発表 平成 16 年 11 月 (鳴門大学) |
| 11. 生命と希望 (単独)
第 65 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 17 年 6 月 (香川大学) |
| 12. 技術(者)と倫理—情報技術・医療技術と環境論的技術— (単独)
第 57 回 中国四国教育学会大会発表 平成 17 年 11 月 (安田女子大) |
| 13. 死の不安について—デスエデュケーションを展望して— (単独)
第 67 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 18 年 6 月 (九州女子大学) |
| 14. 死生観と教育 (単独)
第 58 回 中国四国教育学会大会発表 平成 18 年 11 月 (岡山大学) |
| 15. 技術者倫理と教育—「人間のため」の技術者倫理とは— (単独)
第 59 回 中国四国教育学会大会発表 平成 19 年 11 月(広島大学) |
| 16. 技術者倫理教育と倫理学理論 (単独)
第 56 回 日本工学教育協会、工学・工業研究講演会発表 平成 20 年 8 月 (神戸大学) |
| 17. ヒューマン・エラーとヒューマン・ファクター (単独)
第 61 回 中国四国教育学会発表 平成 21 年 11 月 (島根大学) |
| 18. 人生の意義・目的について—道徳教育を展望して— (単独)
第 62 回 中国四国教育学会発表 平成 22 年 11 月 (香川大学) |
| 19. カントの定言的命法について—道徳教育を展望して— (単独)
第 63 回 中国四国教育学会大会発表 平成 23 年 11 月 (広島大学) |
| 20. カント倫理学の命法について—道徳教育を展望して— (単独)
第 79 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 24 年 6 月 (文教大学) |
| 21. 人間尊重の精神とは—道徳教育を展望して— (単独)
第 80 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 24 年 10 月 (鳥取大学) |
| 22. 人間尊重の精神とは—ルソーとカントの人間観を参考にして— (単独)
第 64 回 中国四国教育学会大会発表 平成 24 年 11 月 (山口大学) |
| 23. 倫理基準と人間の位置づけ—カントの倫理学を参考に— (単独)
第 81 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 25 年 6 月 (国学院大学) |
| 24. 人間の位置づけと道徳教育—ルソーとカント倫理学を参考に— (単独)
第 65 回 中国四国教育学会大会発表 平成 25 年 11 月 (高知工科大学) |
| 25. 自己犠牲についての考察 (単独)
第 83 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 26 年 7 月 (昭和女子大学) |
| 26. 自己犠牲についての道徳的位置づけ—ニーチェとカント (単独)
第 66 回 中国四国教育学会大会発表 平成 26 年 11 月 (広島大学) |
| 27. 道徳的主体性とその幻想の可能性について (単独)
第 84 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 26 年 11 月 (高知大学) |
| 28. 人間の本性について—ブランク・スレートと道徳的責任— (単独)
第 85 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 27 年 6 月 (東京学芸大学) |
| 29. 自由と道徳的責任 (単独)
第 67 回 中国四国教育学会大会発表 平成 27 年 11 月 (岡山大学) |



	<p>30. 心身論と道徳性 (単独) 第 86 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 27 年 11 月 (岡山大学)</p> <p>31. 技術と人間 (単独) 第 87 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 28 年 7 月 (聖徳大学)</p> <p>32. 技術者倫理教育と人間観 (単独) 第 64 回 日本工学教育協会、工学・工業研究講演会発表 平成 28 年 9 月 (大阪大学)</p> <p>33. 欲望論と道徳 (単独) 第 88 回 日本道徳教育学会大会発表 平成 28 年 10 月 (秋田公立美術大学)</p> <p>34. 科学技術時代における人間観—倫理教育を展望して— (単独) 第 68 回 中国四国教育学会大会発表 平成 28 年 11 月 (鳴門教育大学)</p> <p>36. 「科学技術時代における人間観—倫理教育を展望して」 (単独) 『教育学研究紀要』第 62 巻 (中国四国教育学会編) 1-6 頁 平成 29 年 3 月</p>
	<p>【報告】</p> <p>「ゆとり」の原点としての「反省的雰囲気」(単独) 『子ども達の輝ける未来のために鳥取県民がめざす中高一貫教育校』 鳥取県中島一貫教育校検討委員会編、20 頁 平成 15 年 3 月</p>
	<p>【翻訳】</p> <p>アメリカ生命倫理百科事典第 3 版 (英語) (下記項目を単独翻訳) Encyclopedia of Bioethics 3rd Ed. 2007 の下の項目の翻訳 【compassionate love】(同情的な愛)、【advertising】(広告) アメリカ生命倫理百科事典第 3 版 丸善株式会社 平成 21 年</p> <p>カトリック大事典 (ドイツ語) (下記項目を単独翻訳) 【神学と哲学】【ギリシア正教会】【教理問答書】【ガリオ碑文】【サウジアラビア】【クリストフォルス】 【クレスティアヌス一世】【赤道ギニア】【セイシェル】【クヌード一世】【スワジランド】【クヌード四世】 【クレメンズ十一世】【クレメンズ十二世】【クレメンズ十三世】【ソマリア】【中央アフリカ】【ラオス】 【ナミビア】 上智大学編, 研究社, 平成 8 年</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学遺伝子解析研究倫理審査委員会委員 (平成 13 年 6 月～平成 16 年 3 月) ・鳥取県中高一貫教育検討委員会委員 (平成 14 年 4 月～平成 15 年 3 月) ・島根県立看護短期大学 (現島根県立大学) 倫理審査委員会委員 (平成 14 年 11 月～平成 17 年 3 月)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本道徳教育学会会員 (平成 12 年 4 月～現在に至る) 中国四国教育学会会員 (平成 12 年 4 月～現在に至る)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担当科目	〔食物栄養学科〕 ・児童・生徒の栄養指導 ・給食管理 ・給食管理実習Ⅱ ・栄養指導実習Ⅱ ・教職実践演習（栄養教諭） ・栄養教育実習事前・事後指導 ・栄養教育実習 ・キャリアアップ演習Ⅱ	
専門分野	■栄養教諭養成に関する指導 ■食育・食に関する指導 ■児童生徒の食生活 ■集団給食における衛生管理	
最終学歴	熊本女子大学（現：熊本県立大学） 文・家政学部 食物学科	
学位	学士（家政学）	
職歴	中津・宇佐市立小・中学校 学校栄養職員（昭和51年4月～平成7年3月） 豊後高田市立小・中学校 主任学校栄養職員（平成7年4月～平成17年3月） 大分県教育庁体育保健課 指導主事（平成17年4月～平成20年3月） 豊後高田市立真玉中学校 栄養教諭（平成20年4月～平成26年3月） 東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授（平成26年4月～現在に至る）	
教育上の業績	1. 研究分野等の教育内容の充実に向けた取組 （概要） ○食生活等実態調査を大分県教育委員会として実施し、集計結果及びその分析をとりまとめた「児童・生徒の食生活等実態調査報告書」を作成する。また、この調査をもとに、食育推進の意識の醸成を図るとともに、食育の推進に努める。（平成17年～平成20年） ○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。（平成20年～平成23年） ○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。（平成20年～平成23年） ○大分県教育委員会において学校における食育の推進及び食に関する指導の充実のための「生きる力を育む食育推進事業」を企画・立案し、研究の方向性や内容、実施方法等について、指定地域・学校の指導に当たる。（平成17年～平成20年） ○文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究」マニュアル作成ワーキング委員を5年にわたり務め、全国の学校給食に携わる関係者にとって、学校給食衛生管理の指針となるマニュアル作成を行う。（平成20年～平成24年） ○栄養教諭に関する指導書（教科書）の作成 大学において栄養教諭を目指す学生や義務教育諸学校に勤務する栄養教諭のための指導書（教科書）「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」、「学校給食調理従事者研修マニュアル」、「よくわかる栄養教諭―食育の基礎知識 第二版―」を作成し、各研修会における講話や学生に対する講義において実践的な指導に努めている。（平成26年～平成29年）	
	2. 作成した教科書・教材 ・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part 1」（再掲） ・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part Ⅱ」（再掲） ・「調理技術&衛生管理マニュアル」（再掲） ・「学校給食調理従事者研修マニュアル」（再掲）	



	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校給食施設設備の改善事例集」(再掲) ・「よくわかる栄養教諭—食育の基礎知識 第二版」(再掲)
	3. 学会等における発表
	<ul style="list-style-type: none"> ・第63回全国学校給食研究協議大会(平成24年) 研究主題「食に関心をもち、自ら考え、健康を追求していく児童生徒の育成」
主な研究活動	1. 食生活に関する教育の実践研究
	(概要) 児童生徒が「食の重要性」や「食を選択する力」を身につけ、食生活を改善できるよう児童生徒の食生活の実態を把握・分析し、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の研究実践。
	2. 食育の推進に関する実践研究
	(概要) 食育の推進充実のための方策として、幼稚園から中学校までの11年間を見通した組織的・計画的な食に関する指導体制の整備や児童生徒の望ましい食習慣の形成に向けた食に関する指導の在り方の研究。
	3. 食物アレルギーをもつ児童生徒への個別指導における研究
	(概要) 食物アレルギーをもつ児童生徒への学校給食における食事対応について、文部科学省の「学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドライン」に基づき、「食物アレルギー対応マニュアル」を作成する。また、食物アレルギーをもつ児童生徒の個別指導及びその保護者への個別相談活動の取組。
	4. 肥満及び痩身傾向にある児童生徒への個別指導における研究
	(概要) 文部科学省の「学校給食摂取基準」に基づき、児童生徒の体格の評価や推定エネルギー必要量を算出し、個別の対応が必要な生徒に対しての個別の指導の在り方における研究実践。
5. スポーツをする児童生徒のための指導の在り方における研究	
(概要) 野球部、柔道部、陸上部を中心に、スポーツ選手としての食事の留意点や試合前の食事、体調管理についての個別指導における研究実践、及びスポーツ栄養に配慮した調理講習会の講師を務める。	
6. 学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究	
(概要) 文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者マニュアル作成ワーキンググループ委員」として、学校給食における衛生管理の充実のための研究及びマニュアル作成を行う。	
7. 栄養教諭が行う食に関する指導の在り方	
土谷政代(東筑紫短期大学研究紀要 第47号 平成28年12月)	
(概要) 「中央教育審議会答申」や現行の「学習指導要領」を踏まえ、学校における食育の推進に向けて、推進・指導体制の望ましい在り方を示すとともに、各教科や領域において、栄養教諭の専門性を活用しながら学校教育活動全体で取り組む「食に関する指導」の在り方を示した。	
	【著書】
	1. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part 1」 (平成21年)(文部科学省)
	共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担当：第3章・2・3(P20・P44)
	(概要) 食中毒を防止するため、調理場における食品・調理器具等の洗浄・消毒の意義やその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述。
	2. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」 (平成22年)(文部科学省)
	共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員 担当：第2章・3・4・5・6・7・8・9・10(P13・P24)
	(概要) 調理場の施設や食器等の洗浄・消毒および洗浄・消毒の評価方法についてその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述。



	<p>3. 「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」 (平成 23 年) (文部科学省) (学建書院)</p> <p>共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員</p> <p>担当：第 2 章-1, 第 3 章-1・2, 第 5 章-1・2 (P8・P12) (P15・P27) (P51・P56)</p> <p>(概要)</p> <p>科学的根拠に基づき、検収室・下処理室における洗浄方法や調理室における切裁・調理の作業について衛生管理と調理技術の両方の視点から記述。</p>
	<p>4. 「学校給食調理従事者研修マニュアル」 (平成 24 年) (文部科学省) (学建書院)</p> <p>共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員</p> <p>担当：第 2 章-1, 第 3 章-1・2, 第 5 章-1・2 (P8・P12) (P15・P27) (P51・P56)</p> <p>(概要)</p> <p>「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、衛生管理を充実させるためのステップを明記するとともに、根拠を追及・詳述し、研修を担当する指導者のためのマニュアル。</p>
	<p>5. 「学校給食施設設備の改善事例集」 (平成 25 年) (文部科学省)</p> <p>共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員</p> <p>担 当：第 3 章-1 (P10・P20)</p> <p>(概要)</p> <p>衛生管理のステップ毎に改善の方法や改善事例をまとめたもの。</p>
	<p>6. 「よくわかる栄養教諭—食育の基礎知識— 第二版」 (平成 28 年) (同文書院)</p> <p>編 著：藤澤良知・芦川修貳・古畑公・田中弘之・田中延子</p> <p>著：土谷政代・大田裕美子・白尾美佳・亀田明美・守田真里子・登坂三紀夫・山口蒼生子・梅垣敬三・小河原佳子・堤ちはる・原ゆみ・安倍ちか</p> <p>担当：(第 2 章-1,2 節) (P19・P37)</p> <p>(概要)</p> <p>衛生管理のステップ毎に改善の方法や改善事例をまとめたもの。</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・食育講演会「元気な体と心は食事から～食べ方は生き方・育て方」(平成 26 年) ・食育講演会「食事と健康～子どもの健やかな成長を願って～」(平成 27 年) ・食育講演会「食事、その食べ方を考えよう～これからの身体づくりのために今できること～」(平成 27 年) ・食育講演会「体の栄養・心の栄養～逞しい心と体づくりのために」(平成 27 年) ・学校栄養士研究発表会指導助言(平成 27・28 年) ・学校栄養職員研修会 新規採用・フォローアップ研修講師(平成 28 年)
所属学会	<p>日本栄養士会 (昭和 51 年～現在に至る)</p> <p>日本栄養改善学会 (平成 26 年～現在に至る)</p>
受賞歴	<p>大分県栄養士会研究発表事例研修会優秀賞 (平成 12 年)</p> <p>大分県教育委員会教育実践者表彰 (平成 14 年)</p> <p>大分県教育委員会学校給食功労者表彰 (平成 22 年)</p> <p>文部科学省学校給食功労者文部科学大臣表彰 (平成 23 年)</p>

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>【食物栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅱ ・臨床栄養学実習Ⅰ、臨床栄養学実習Ⅱ ・キャリアアップ演習Ⅰ
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■臨床栄養学 ■感染制御学
最終学歴	東京医療保健大学 大学院 博士課程
学位	博士（感染制御学）
職歴	<p>医療法人(現 社会医療法人)北九州病院 北九州中央病院 (昭和60年10月～平成10年3月)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画課 課長 (平成10年4月～平成17年9月)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画 副部長 (平成17年10月～平成26年3月)</p> <p>九州女子大学 家政学部 栄養学科 准教授 (平成26年4月～平成28年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成28年4月～現在)</p>
教育上の業績	<p>【教科書】</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 (共著) (講談社)</p> <p>(担当部分概要)第9章「公衆栄養プログラムの展開」</p> <p>保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. 「北九州病院グループにおける衛生管理品質保証システムの構築」 (北九州病院紀要 51-55 2004年10月) 共著者名：和佐野紀子 真溪香代子 森繁美智子 <u>近藤順子</u> (P51～P55) [共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要) 入院患者に信頼される高度な衛生管理を実現させるため、リスク・アセスメントをうけ、安全性の確保と高い知識を持つ調理員の育成を目標とした取り組みについて、北九州病院グループにおける衛生管理品質保証システム構築についてまとめた。</p> <p>2. “Modulatory effects of Bifidobacterium longum BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding” World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170 共著者名：近藤順子、阿部亜希恵、清水金忠、小川康一、下田妙子 (P2162-P2170) [共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要) 経管栄養で管理している高齢者を対象に、試験1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を16週間摂取した群の2群に分け、試験2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の3群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。</p> <p>3. 「酸味調味料の物性特性と嚥下困難者の栄養状態」 (日本医療企画 Human Nutrition 2013.12月 No27 80-89) 共著者名：近藤順子、原田薫雄、真溪香代子、道脇幸代、下田妙子 (P80-P89) [共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要) 嚥下機能が低下した患者に提供する料理において酢は揮発性成分が咽頭を刺激し「むせ」を誘発する。揮発性の酸の相対存在量を削減した調味料を使用した料理の摂取がおよぼす嚥下機能や栄養状態への影響を調査した。</p>



4. 「高齢糖尿病患者に対する L-イソロイシン配合濃厚流動食の血糖コントロールおよび栄養状態におよぼす影響」

(日本臨床栄養協会 原著論文 New Diet Therapy 2014.12 月.Vol30 No.3 15-22)

共著者名：近藤順子、岡田昌子、吉岡承美、遠藤美香、宮本美知子、蓮尾裕

(P15-P22) [共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

耐糖能異常を伴う高齢経管栄養患者において、アミノ酸 L-イソロイシンが配合されたディムベストを使用した症例において血糖コントロールと栄養状態の維持改善の結果をまとめた。

【学会発表】

1. クオリティーを考慮した「お惣菜」既製品化への検討

第 13 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

(平成 19 年 9 月)

メーカー依頼の嚥下食「お惣菜」開発までのプロセスを報告。

2. 北九州古賀病院での食形態改善の取り組み

第 16 回日本療養病床協会全国研究会

(平成 20 年 9 月)

きざみ食廃止の試みについて報告。

3. 病院職員を対象とした健診結果から肥満、血糖、中性脂肪の比較検討

第 55 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 20 年 9 月)

病院職員の健診結果約 2,000 名のデータから BMI から肥満に該当する人の血糖と中性脂肪の値を健常者と比較検討した結果を報告。

4. 嚥下食における医療連携

第 34 回福岡県栄養改善学会

(平成 20 年 9 月)

嚥下食の物性評価を実施し、段階別障害レベルと合わせて地域で連携する7対応について報告。

5. 病院職員を対象とした健診結果の階層化と階層別食習慣との関連

第 56 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 21 年 9 月)

750 名の健診結果から BMI を 5 群に階層化し生化学検査結果および食習慣との関連を報告。

6. メタボリックシンドローム群の BMI と食習慣との関連

第 13 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 22 年 1 月)

メタボリックシンドローム群と健常群の BMI を基本にして生化学検査結果と食習慣の関連について報告。

7. 新規な介護用ソースを用いた嚥下食メニューの理化学物性と嚥下適正評価

第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

(平成 22 年 9 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

8. 高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果

第 57 回日本栄養改善学会学術総会

(2010 年 9 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 5 週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果を報告。

9. プロバイオティックビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討

第 14 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 23 年 1 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

10. プロバイオティックビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討

第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 24 年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめ。

	<p>11. プロバイオティクビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討 第15回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成24年1月) 経管栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を16週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめ。</p> <p>12. ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内細菌叢におよぼす影響 第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成25年2月) 経管栄養で管理している高齢者を3群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。</p> <p>13. 経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査 第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成26年2月) 経管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動での体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。</p> <p>14. 寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査 第18回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成27年1月) 経管栄養で管理している高齢者においてサルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。</p> <p>15. 脳卒中中クリニカルパスへの歯科専門検診・口腔ケア導入の取組みと効果 第62回日本栄養改善学会学術総会 (平成27年9月) 誤嚥性肺炎を防止するために、クリニカルパスに歯科医師専門の口腔ケアを導入し栄養状態および血液検査等の調査を実施した。その効果について発表した。</p> <p>16. サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果 第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成28年2月) サルコペニア肥満患者を対象にリハビリテーションと筋肉合成に関与するビタミンDと分岐鎖アミノ酸を豊富に含む栄養補助食品を組み合わせることで体組成の変化、栄養状態、身体機能への効果について報告した。</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>【調査研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省 長寿科学総合研究事業 (北海道大学 大浦武彦教授) 「褥瘡の予防と治療に関する研究」～栄養介入の効果の検討 (平成20年4月～平成22年3月) <p>(概要) 厚生労働省の研究事業 日本全国横断研究に参画。北九州病院グループにおける対象患者の臨床データをまとめて提出をおこなった。</p>
	<p>【職務上の実績】</p> <p>1. 脳血管疾患 地域医療連携体制構築 (平成18年4月～平成20年3月) 北九州市の脳卒中連携パス稼働の数年前から、急性期・回復期・慢性期の脳卒中連携パスの開発とシステム運用を実施してきた。地域の開業医や地域住民への早期発見・早期治療の啓蒙活動にも参画した。</p> <p>2. 医療材料管理システムの構築 (平成19年4月～平成26年3月) 入院患者の高齢化・重症化に伴い医療材料のコストが年々増加傾向にあり、医療材料について発注・棚卸・受払の管理システムの構築、スケールメリットを活かした価格交渉を行い、コスト削減を図った。各施設医療材料発注担当者へABC分析や在庫回転率による管理体制についても教育指導を実施した運用活用を導入。</p> <p>3. 西日本看護専門学校 栄養学非常勤講師 (平成20年11月～平成26年3月) 西日本看護専門学校において2年生を対象に「栄養学」の講義を担当。臨床現場で即戦力として役立つように、教科書では知ることができない医療現場での経験を基に授業を展開してきた。また、糖尿病の治療食調理実習など現場での患者教育に活かせる内容の講義を盛り込み実施した。</p>



4. 商品開発

メーカーからの協力依頼により商品開発に参画

- ① 「エンジョイゼリー」
製造販売元依頼：森永乳業(株)クリニコ
- ② 「もぐもぐお惣菜ムース」
製造元依頼：熊本県 デリテック(株)
販売：北進産業(株)
- ③ 「ジャネフなめらかプラス」(メーカー特許取得)
製造販売元依頼：キューピー(株)
- ④ 「豆腐やわらかパテ」
製造販売元依頼：不二精油(株)

5. BCP (業務継続計画) 体制整備

(平成23年10月～平成26年3月)

大規模な震災発生により医療としての業務継続計画 (BCP) の体制整備について要望が高まり、北九州市での圧倒的介護療養病床の高いシェア率である病院グループについては医療として地域に果たす役割の大きさから、緊急連絡体制の推進および対応すべき基盤となる項目の構築を行った。

【講演活動】

1. 業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成18年10月)
「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
2. 佐賀栄養士セミナー 九州電力 佐賀営業所 (平成19年2月)
「北九州病院グループにおける段階嚥下食の対応」講演
3. 業務用電化厨房セミナー 九州電力 鹿児島営業所 (平成19年7月)
「クオリティを考慮した“お惣菜ムース”既製品化への検討」講演
4. 業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成19年8月)
「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
5. 佐賀栄養士セミナー 佐賀栄養士勉強会 (平成19年9月)
「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
6. 業務用電化厨房セミナー 九州電力 北九州イリス (平成20年11月)
「厨房環境の改善 実測データを交えて」講演
7. 医療従事者対象 トークセミナー 北九州商工会議所 (平成23年3月)
「脳卒中の医療連携」脳外科医師と管理栄養士の取り組み 講演
8. 特定医療法人勇愛会 大島病院 褥瘡・NST メンバー対象 (平成24年10月)
「栄養管理から考える褥瘡対策」講演
9. 門司掖済会病院 看護師対象 (平成27年5月～平成28年3月)
「看護臨床研究の基本から研究発表を行うまで」シリーズ4回講演
10. 第62回日本栄養改善学会学術総会 ランチョンセミナー座長 (平成27年9月)
「災害時の医療機能継続における栄養士の役割～専門職としての事前準備と緊急時の対応～」
共 催：西部ガス株式会社



所属学会	日本栄養改善学会員 (平成7年4月～現在に至る) 日本糖尿病協会員 (平成10年4月～現在に至る) 日本病態栄養学会員 評議員 (平成12年4月～現在に至る) 日本静脈経腸栄養学会員 (平成24年4月～現在に至る) 日本臨床栄養協会員 (平成26年5月～現在に至る)
受賞歴	福岡県栄養士大会 第27回栄養改善学会 功労者表彰 (平成13年9月) 第16回 International Congress of Dietetics 臨床栄養療法部門賞 (平成24年9月)

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担 当 科 目	〔食物栄養学科〕 ・生徒指導の理論と方法 ・教育心理学 ・心理学 ・教職実践演習（栄養教諭） 〔保育学科〕 ・教育心理学 ・心理学 ・発達心理学Ⅰ、発達心理学Ⅱ、発達心理学Ⅲ 〔美容ファッションビジネス学科〕 ・心理学	
専 門 分 野	■臨床心理学 ■生徒指導 ■教育相談 ■教育実践（いじめ、不登校、学級経営） ■教育心理学 ■発達心理学	
最 終 学 歴	兵庫教育大学 大学院 学校教育研究科生徒指導コース	
学 位	修士（学校教育学）	
資 格 等	臨床心理士（日本心理臨床学会）	
職 歴	福岡市公立中学校（生徒指導主事、学年主任）（昭和55年4月～平成2年3月） 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 生徒指導コース（平成11年4月～平成13年3月） 福岡市公立中学校教諭（平成13年4月～平成16年3月） 福岡市教育委員会教育相談課（平成16年4月～平成21年3月） こども総合相談センター 教育相談課指導主事、臨床心理士資格取得 福岡市立公立中学校（教頭）（平成21年4月～平成25年3月） 福岡市立公立中学校（校長）（平成25年4月～平成29年3月） 東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授（平成29年4月～現在に至る）	
教育上の業績	○日本カウンセリング学会発表（平成12年8月） ○日本教育心理学会発表（平成13年9月） ○全国適応指導教室連盟全国大会発表（平成15年8月） ○日本学校教育相談学会九州大会発表（平成16年5月） ○各小中学校の学校研修会の講師、初任者10年経過教員研修講師 緊急支援（生徒傷害事件、福岡県西方沖地震、いじめによる自殺予告） 学校研修講師（教育相談研修、いじめ不登校研修、学級経営研修） （平成16年4月～現在に至る）	
	【作成した教科書・教材】 ○「いじめ問題への理解のあり方と教師の対応について」 いじめのメカニズムと思春期心性から、子どもが陥りやすいいじめの構造と教師の留意点を明確にし、いじめ事例の演習をした。（平成19年1月） ○「非行生徒に対する教師の対応と教育相談のあり方」 非行生徒へのカウンセリングを通じて教師の教育相談的態度を培い、ストレスマネジメントによる技法の習得と具体的解決方法を提示した。（平成19年3月） ○「学校における相談技法のあり方」 精神分析的心理療法と認知行動療法により、問題行動への理解を深め、具体的場面における教育相談技法のあり方について説明した。（平成19年3月）	



	<p>○「学校で行うストレスマネジメント」 ストレスのメカニズムとストレス対処法に対する理解を高め、ストレスマネジメントにより、教師や子どものストレスの低減を図った。 (平成20年4月)</p> <p>○「心理学概論」 「行動療法、クライアント中心療法、精神分析的心理療法」の特性と技法のあり方について紹介し、学校で行えることが可能な、カウンセリング技法の活用のある方についてまとめた。 (平成22年4月)</p>
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>学校の時間制限カウンセリング (共著) p115～p127 (平成13年4月)</p> <p>ネットワークによる不登校生徒支援 (共著) p27～p37 (平成15年4月)</p> <p>教師カウンセラー実践ハンドブック (共著) p106～p107 (平成22年4月)</p>
	<p>【学会発表】</p> <p>日本カウンセリング学会「非行男子生徒への危機介入カウンセリング」 (平成12年8月)</p> <p>日本教育心理学会「中学生の攻撃性の特徴と攻撃性に対する教師の対処法の分析」 (平成13年9月)</p> <p>全国適応指導教室連盟全国大会「ネットワークによる不登校生徒支援」 (平成15年8月)</p> <p>日本学校教育相談学会「危機発生時における教師の対応と危機介入のあり方」 (平成16年8月)</p>
主な社会活動	<p>・学校緊急支援、学生相談員スーパーバイザー (平成16年4月～平成21年3月)</p> <p>・各小中学校の研修会講師活動 (平成17年4月～現在に至る)</p> <p>不登校生徒支援の理解と対応のあり方、いじめの理解と対応のあり方学級経営のあり方、生徒指導体制のあり方、教育相談研修、教師のストレスマネジメント 等</p>
所属学会	<p>日本心理臨床学会 (平成17年4月～現在に至る)</p> <p>日本学校教育相談学会 (平成17年4月～現在に至る)</p>
受賞歴	<p>福岡市教育委員会学校賞受賞 (平成28年11月)</p>

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理学 ・調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、調理学実習Ⅲ ・キャリアアップ演習Ⅱ <p>[専攻科(介護福祉専攻)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事の介護
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■特定健診特定保健指導 ■栄養指導 ■栄養講話 ■調理実習
最終学歴	活水女子短期大学 専攻科食物専攻
学位	短期大学士(栄養学)
職歴	<p>独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院 栄養管理室 栄養士 (昭和62年～昭和63年)</p> <p>医療法人清陵会 南ヶ丘病院 栄養管理室 管理栄養士 (平成元年～平成6年)</p> <p>みやこ町役場 総合福祉センター(旧 豊津町役場) 管理栄養士 (平成16年～平成18年)</p> <p>みやこ町役場 管理栄養士 (平成20年～平成27年)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成28年4月～現在に至る)</p>
主な社会活動	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病院在籍中は病態別に個人栄養指導を行い病状の改善に繋げる (昭和62年～平成6年) 2) 乳幼児健診後、栄養指導及び離乳指導を行う (平成16年～平成27年) 離乳食教室において、離乳食の作り方や進め方の指導をおこなう (平成23年～平成27年) 3) 特定健診・特定保健指導に携わり、個人面談、その後のフォローを個別に行い疾病の発症予防・重症化の予防と改善に繋げる (平成20年～平成27年) 4) 小学4年～6年生を対象に「仲良しクッキング」の調理実習を行う (平成23年) 5) 住民の栄養相談、栄養指導、訪問指導を随時行い、食生活改善に繋げる (平成23年～平成27年) 6) 食生活改善推進員の教育として、年6回生活習慣病をテーマに講話と調理実習、衛生管理指導を行う (平成23年～平成27年) 7) 毎年、食生活改善推進員養成講座を開講し、食生活改善推進員の増員を図る (平成23年～平成27年) 8) 平成24年度、食生活改善推進会「男性部」を養成し、発足する (平成24年) 9) 地域の食育活動を食生活改善推進員と共に推進する (平成23年～平成27年) <ul style="list-style-type: none"> ・1歳半・3歳児を対象に、食事の一部としての「おやつ」を作り、献立を添えて配布 ・「歯の健康フェア」にて「歯に良いおやつ」と「歯ッピーレシピ」を配布 ・保育所にて、「おやこの食育」推進の調理実習指導 ・地域の公民館への「バランス弁当」の配布と健康講話 ・献血の際、「貧血予防食」を作り、貧血予防の献立を添えて配布 ・防災訓練において、地産地消を目的とした炊き出しと、非常食のチラシ作製配布 ・小学生の体験合宿にて「手作りこんにゃく」の実習指導を行う 10) 保育所にて、幼児期の母親を対象に、幼児期の食生活についての講話と、親子で作る「おやつ」の調理実習を行う (平成23年～平成27年) 11) シルバー人材センター会員を対象に、年2回、生活習慣病の予防と改善をテーマにした講話と、調理実習を行う (平成23年～平成27年)



- 12) 男性の食の自立と生活習慣病の予防と改善を目指し、「初心者男性料理教室」の講話と調理実習を行う (平成 23 年～平成 27 年)
- 13) みやこ町「健康のつどい」にて、地域住民の生活習慣病予防と改善をはかる (平成 23 年～平成 27 年)
- ・「骨密度測定」・「体成分測定」・「味噌汁の塩分濃度測定」・「塩分閾値測定」・「肺年齢測定」を行い食生活改善に繋げる
 - ・「清涼飲料水に含まれるさとうの量」や「食品に含まれる食塩の量」、「1 日の野菜 350 g」の展示と解説をする
 - ・個別に栄養相談を受ける
- 14) 広報において、食の改善をテーマに原稿を書く (平成 23 年～平成 27 年)
- 15) 生活習慣病の予防と改善、重症化予防をはかるため、各種老人大学（たちばな大学・各地区女性学級）の健康講話を行う (平成 23 年～平成 27 年)
- 16) 生活習慣病の予防と改善、重症化予防をはかるため、各行政区や各教室への「出張講座」を随時行う（年間 50 回以上） (平成 27 年)
- ＜健康講話＞高血圧予防と食事、骨粗しょう症予防と食事、内臓脂肪と動脈硬化予防の食事、バランスのとれた食事、熱中症予防と食事、特定健診の結果の見方と食事等について、パワーポイントを作成し、講話する
- ＜演習＞自分に合ったエネルギー量、1 日のご飯量、1 日の油の量の計算
- ＜測定＞体成分測定、骨密度測定、塩分閾値測定
- 17) 「地域検討ケア会議」にて事例に対しての食生活改善指導や訪問栄養指導を行う (平成 27 年)
- 18) 特定健診データからデータの分析、それに基づく国保加入者の健康保持増進のための事業計画として“データヘルス計画”を策定し、町みやこ町の健康寿命延伸を図る (平成 27 年)
- 19) 周望学舎のシニアカレッジにて『自分の体を知って、食事でメンテ！ランスごバはん』をテーマに、身体成分測定を行い、測定結果をもとに、食品の選び方や食べ方、バランスの取れた食事についての講座を行う (平成 28 年)
- 20) 周望学舎大学祭にて『清涼飲料水に含まれる砂糖の量』をテーマに、常日慣れ親しんで飲んでいるジュース・缶コーヒー・栄養ドリンク等に、予想以上の砂糖量が含まれていることを視覚でとらえてもらうための媒体展示を行う (平成 28 年)

所属学会	日本栄養士会	(昭和 62 年～現在に至る)
	日本栄養改善学会	(平成 28 年～現在に至る)
受賞歴	日本栄養士会 栄養改善功績表彰	(平成 26 年)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物学 ・基礎化学 ・食品衛生学 ・食品衛生学実験 ・食品の官能評価・鑑別演習 ・キャリアアップ演習 I
専門分野	<p>■微生物学</p> <p>■分子生物学</p>
最終学歴	筑波大学大学院 生命環境科学研究科
学位	博士 (学術)
職歴	<p>筑波大学 生命環境科学研究科 非常勤研究員 (平成 24 年 4 月～平成 28 年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教 (平成 28 年 4 月～現在に至る)</p>
主な研究活動	<p>【学術論文等】</p> <p><u>Masako Matsumoto</u>, Yoshiteru Hashimoto, Yuki Saitoh, Takuto Kumano, Michihiko Kobayashi : Development of nitrilase promoter-derived inducible vectors for <i>Streptomyces</i>. Biosci. Biotechnol. Biochem. 2016 Feb 29:1-8.</p> <p>亀井勇統・松本雅子 海洋細菌 <i>Pseudomonas</i> sp. ND137 株由来の粗酵素による効率的なノリプロトプラスト作出法の検討 Coastal Bioenvironment Coastal Bioenvironment Center Saga University, 2009-6, Vol.13 p.33-40 紀要論文</p> <p>松本雅子・青木幸久・亀井勇統 ノリプロトプラスト化能を有する海洋細菌 <i>Pseudomonas</i> sp. ND137 株由来の \square-1,4-キシラナーゼ遺伝子のクローニング Coastal Bioenvironment Center Saga University, 2005-1, Vol.4 p.45-52 紀要論文</p> <p>【学会発表等】</p> <p><i>Rhodococcus</i> を宿主とする構成型大量発現シャトルベクターの機能解析 日本農芸化学会大会 ポスター発表 (平成 28 年 3 月)</p> <p>放線菌で機能する誘導型シャトルベクターの構築と機能解析 第 30 回放線菌学会大会 ポスター発表 (平成 27 年 10 月)</p> <p><i>Streptomyces</i> 属で機能する誘導型高発現ベクターのシャトル化 日本農芸化学会大会 口頭発表 (平成 27 年 3 月)</p> <p>Construction of a shuttle vector for <i>E. coli</i> - <i>Streptomyces</i> 2015 International Symposium on New Frontiers in Microbiology and Biotechnology ポスター発表 (平成 27 年 1 月)</p> <p><i>Rhodococcus rhodochrous</i> J1 株由来 H 型ニトリルヒドラーターゼ (H-NHase) 発現機構を基にした <i>Rhodococcus</i> 属放線菌における構成型発現系の構築 日本農芸化学会大会 口頭発表 (平成 26 年 3 月)</p> <p>Construction of a constitutive expression plasmid for <i>Rhodococcus</i> 2014 International Symposium on New Frontiers in Microbiology and Biotechnology 口頭発表 (平成 26 年 1 月)</p> <p>AcGFP をレポーター遺伝子に用いた <i>Streptomyces</i> 由来シグナルペプチドの探索 日本農芸化学会大会 口頭発表 (平成 25 年 3 月)</p> <p>海洋細菌 <i>Alcanivorax</i> sp. の有毒渦鞭毛藻 <i>Gymnodinium catenatum</i> の発芽・成長促進活性 第 85 回日本生化学会大会 ポスター発表 (平成 24 年 1 月)</p>



	Candidate saxitoxin biosynthesis genes from the toxic dinoflagellate <i>Gymnodinium catenatum</i>. World Fisheries Congress ポスター発表 (ベストポスター賞) (平成 20 年 10 月)
所属学会	日本生化学会 (平成 24 年～現在に至る) 日本農芸化学会 (平成 24 年～現在に至る) 日本放線菌学会 (平成 25 年～現在に至る)
受賞歴	World Fisheries Congress ベストポスター賞 (平成 20 年)

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	〔食物栄養学科〕 ・スポーツ健康科学Ⅰ、スポーツ健康科学Ⅱ 〔保育学科〕 ・スポーツ健康科学Ⅰ、スポーツ健康科学Ⅱ 〔美容ファッションビジネス学科〕 ・スポーツ健康科学Ⅰ、スポーツ健康科学Ⅱ
専 門 分 野	■健康科学 ■体育科教育学
最 終 学 歴	福岡教育大学大学院 教育学研究科教育科学専攻 保健体育コース
学 位	修士（教育学）
職 歴	東筑紫学園高等学校・照曜館中学校 常勤講師 (平成24年4月～平成28年3月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教 (平成28年4月～現在に至る)
主な研究活動	【論文】 石原勇次郎,片平誠人,小宮秀一： 皮下脂肪厚の局所減少に及ぼす有酸素性トレーニングの影響 福岡教育大学紀要,5分冊芸術・保健体育・家政科編60号,平成23年2月. 片平誠人,石原勇次郎,畦山与里子,山本利春： 筋弾性計を用いた腹部筋力評価の試み (体力科学,60号,平成23年12月.) 石原勇次郎,・室井由起子： 本学学生の体力測定の結果と現状 東筑紫短期大学研究紀要,第47号,平成28年12月22日. 【学会発表】 石原勇次郎,片平誠人,畦山与里子： マッサージスティックによるセルフマッサージが下肢における筋柔軟性の改善に及ぼす影響 第60回九州・体育スポーツ学会,(平成22年8月.)

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>〔食物栄養学科〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品学総論 ・食品学各論 ・食品学実験 ・食品の官能評価・鑑別演習 ・キャリアアップ演習Ⅱ
専 門 分 野	■食品学
最 終 学 歴	長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 博士後期課程 修了
学 位	博士 (学術)
職 歴	<p>長崎大学 リサーチ・アシスタント (平成25年6月～平成28年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教 (平成28年4月～現在に至る)</p> <p>長崎大学 水産学部 非常勤講師 (平成28年4月～現在に至る)</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>三嶋敏雄, 原 研治, 宮崎里帆, 岡本 昭, 桑原浩一, 平坂勝也, 谷山茂人, 橋 勝康: 各種魚醤油の呈味性に関する研究. 九州栄養福祉大学研究紀要, 13, 23-35 (2016).</p> <p>Katsuya Hirasaka, Shinobu Saito, Saki Yamaguchi, <u>Riho Miyazaki</u>, Yao Wang, Marie Haruna, Shigeto Taniyama, Atsushi Higashitani, Junji Terao, Takeshi Nikawa, Katsuyasu Tachibana: Dietary supplementation with isoflavones prevents muscle wasting in Tumor-bearing mice. Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 62, 178-184 (2016).</p> <p>宮崎里帆, 宮崎貴美子, 梁 佳, 曹 敏傑, 平坂勝也, 橋 勝康, 谷山茂人: ワニエソかまぼこの火戻り現象に及ぼす緑豆トリブシンインヒビター添加の効果. 日本食品化学学会誌, 22, 175-180 (2015).</p> <p>宮崎里帆, 石原 光, 宮崎貴美子, 濱田友貴, 平坂勝也, 橋 勝康, 谷山茂人: 長崎県産養殖クロマグロの 普通筋の肉質に及ぼす体格の影響. 水産増殖, 63, 373-379 (2015).</p> <p>三嶋敏雄, 池田光彦, 松本欣弘, 桑原浩一, 岡本 昭, 宮崎里帆, 平坂勝也, 谷山茂人, 橋 勝康: 麴の使用による魚塩干品の高品質化に関する研究. 九州栄養福祉大学研究紀要, 12, 187-200 (2015).</p> <p>宮崎里帆, 黄 耿琳, 平坂勝也, 竹下哲史, 谷山茂人, 橋 勝康: 養殖ブリのヤケ肉発生に伴う背部普通筋筋内膜の形態学的変化. 水産増殖, 63, 343-348 (2015).</p> <p>宮崎里帆, 山口蓮寿実, 黄 耿琳, 平坂勝也, 竹下哲史, 谷山茂人, 橋 勝康: 強制運動とその後の遊泳回復がマアジのヤケ肉発生に及ぼす影響. 水産増殖, 63, 99-104 (2015).</p> <p>三嶋敏雄, 池田光彦, 岡本 昭, 松本欣弘, 桑原浩一, 宮崎里帆, 平坂勝也, 谷山茂人, 橋 勝康: アイゴ塩干品の高品質化の為の製造条件に関する検討. 九州栄養福祉大学研究紀要, 11, 185-197 (2014).</p> <p>Jia Liang, <u>Riho Miyazaki</u>, Xianxian Zhao, Katsuya Hirasaka, Shigeto Taniyama, Katsuyasu Tachibana: Changes in the pericellular connective tissue and breaking strength of the three types of muscles of the cultured carp <i>Cyprinus carpio</i> during storage in ice. Fisheries Science, 80, 1083-1088 (2014).</p> <p>俞 所銀, 梁 佳, 黄 耿琳, 宮崎里帆, 王 維婷, 趙 鮮鮮, 平坂勝也, 谷山茂人, 橋 勝康: 凍結融解が養殖コイの氷蔵中における品質に及ぼす影響. 長崎大学水産学部研究報告, 95, 35-39 (2014).</p>



	<p>梁 佳, 宮崎里帆, 趙 鮮鮮, 吉田朝美, 平坂勝也, 谷山茂人, 橘 勝康: コイの筋タイプ別細胞化学的 Mg²⁺-ATPase 活性の氷蔵中における変化. 日本食品化学学会誌, 21, 21-26 (2014).</p>
	<p>三嶋敏雄, 岡本 昭, 松本欣弘, 山田弥知, 宮崎里帆, 谷山茂人, 橘 勝康: アユ塩干品の高品質化の為の製造条件に関する検討. 九州栄養福祉大学研究紀要, 10, 217-228 (2013).</p>
	<p>Ning Xiao, Motoaki Yagi, Jia Liang, <u>Riho Miyazaki</u>, Jun Jie Wang, Shigeto Taniyama, Katsuyasu Tachibana: Production of macrophage activating factors by the mitogen-stimulated lymphocytes of Japanese parrotfish (<i>Oplegnathus fasciatus</i>) and the properties of this factor. Bull. Fac. Fish. Nagasaki Univ., 94, 9-15 (2013).</p>
	<p>郭 菲菲, 梁 佳, 宮崎里帆, 王 俊杰, 谷山茂人, 橘 勝康: 走査型電子顕微鏡を用いた魚類普通筋細胞外マトリックス観察試料作製における固定方法の検討. 長崎大学水産学部研究報告, 94, 25-28 (2013).</p>
主な社会活動	<p>北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 シニアカレッジ 講師 「栄養豊富な魚介類についてのおはなし」 (平成 28 年 11 月)</p>
所属学会	<p>日本食品化学学会 (平成 27 年 4 月～現在に至る) 日本水産学会 (平成 27 年 4 月～現在に至る)</p>



所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担当科目 〔実習補助〕	〔食物栄養学科〕 ・臨床栄養学実習Ⅰ、臨床栄養学実習Ⅱ ・栄養学実習 ・医療秘書実務実習 ・家事の介護（調理）	
専門分野	■栄養学、臨床栄養学	
最終学歴	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科	
学位	学士（食物栄養学）	
職歴	学校法人清磨学園 清和幼稚園 北九州市 福祉事業団 枝光児童館 東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手	(平成7年4月～平成14年10月) (平成15年5月～平成29年3月) (平成29年4月～現在に至る)



所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目 〔実習補助〕	〔食物栄養学科〕 ・栄養指導実習Ⅰ、栄養指導実習Ⅱ ・栄養学実習 ・給食管理実習Ⅱ ・栄養教育実習
専 門 分 野	■給食管理、栄養教諭科目
最 終 学 歴	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
学 位	学士（食物栄養学）
職 歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手 (平成29年4月～現在に至る)